

1. はじめに

タイ語移動表現の典型は様態動詞句と経路動詞句を組み合わせた動詞句連続体である。経路表示には経路動詞句を使う頻度が最も高い。経路動詞は直示動詞と非直示動詞に分かれ、どちらか一方が使われる場合(例(1)(2)(6))と両方が使われる場合(例(3)(4)(5))がある。非直示動詞は同種異種共に複数使われ得る(例(4)(5))。経路動詞に「(名詞起源の位置前置詞+)経路参照物名詞句」が続いたり(例(2)(3))、最後の位置に「動詞起源の経路前置詞+(位置前置詞+)経路参照物名詞句」が添えられたりすることもある(例(6))。

- | | | | | | | |
|-----|--------------------|-----|------------|------------------|-------------------|--------|
| (1) | phúan | wîj | khûn | banday | | |
| | friend | run | ascend | steps | | |
| | 友人は階段を駆け上った | | | | | |
| (2) | phúan | wîj | maa | thii | tó? | |
| | friend | run | come | at (< place) | desk | |
| | 友人は机のところに走って来た | | | | | |
| (3) | phúan | wîj | khûn | maa | bon | banday |
| | friend | run | ascend | come | on (< upper part) | steps |
| | 友人は階段の上に駆け上って来た | | | | | |
| (4) | phúan | wîj | lôot | sáaláa | ʔòok | pay |
| | friend | run | move.under | rest.house | exit | go |
| | 友人は走って休憩所を通り抜けて行った | | | | | |
| (5) | phúan | wîj | ʔòok | càak | tùk | ʔòok |
| | friend | run | exit | leave | building | exit |
| | 友人は走って建物を出て行った | | | | | |
| (6) | phúan | wîj | pay | taam | thaaŋ dæŋ | |
| | friend | run | go | along (< follow) | sidewalk | |
| | 友人は歩道に沿って走って行った | | | | | |

異なる言語間で統一的に実施したビデオ実験(Kobe-NINJAL 移動表現プロジェクトC実験)のタイ語版の結果から、異なる経路タイプでは選好される経路表示が異なることが分かった。本稿の目的は、同実験に含まれる14の経路場面(/TO/, /TOWARD/, /FROM/, /ALONG/, /OUT/, /INTO/, /AROUND/, /VIA.UNDER/, /VIA.BETWEEN/, /PAST/, /THROUGH/, /ACROSS/, /UP/, /DOWN/)の実験結果に基づき、タイ語移動表現の経路表示の特徴を明確化することである。タイ語データの分析結果が「経路マップスケール」仮説(図1)を支持することを示す。¹

2. 移動表現の構成語彙

2.1. 移動動詞

移動動詞は[1]使役動詞、[2]様態動詞、[3]瞬間的経路動詞、[4]継続的経路動詞、[5]直示動詞、[6]到着動詞の6種類に大きく分類できる(高橋2017)。分析データには使役動詞を除く[2]~[6]の動詞が含まれていた。VIA.BETWEENを除く13の経路タイプは特定の非直示動詞(瞬間的経路動詞 leave, exit, enter; 継続的経路動詞 follow/skirt, circle, move under, pass, move through, cross, ascend, descend; 終結経路動詞 arrive, approach and meet)で表され得る。単一移動事象を表す動詞句連続体の統語構造/意味構造は表1のように定式化できる。

¹ Kobe-NINJAL 移動表現プロジェクトC実験は、直示経路以外の経路(非直示経路)表示に焦点を当て、各言語の母語話者の発話データ(移動表現)を対照して分析することを目的とする。筆者が担当したタイ語版は2016年7-8月にバンコクで実施し、43名のタイ語母語話者が参加した。実施日と実施場所が異なる3名を除いた被験者40名分(男性9名、女性31名、平均年齢29.25歳、最低年齢13歳、最高年齢57歳)の上記14経路場面の実験データを本稿の分析データとして採用した。単節表現が多かった他の経路場面と異なり複節表現が多かった/OVER/場面のデータは本稿では扱わない。本研究は科研費(基盤研究(B)15H03206「移動表現による言語類型論: 実験的統一課題による通言語的研究」研究代表者: 松本曜)の助成を受けている。

表 1：タイ語動詞句連続体が表す単一移動事象の統語的/意味的構造 (Takahashi to appear)

(a) 移動事象を構成する副事象 (I-III) とそれらを表す動詞 ([1]-[6])	(b) 語彙相
I 使役事象 [移動の原因] [1]使役動詞 活動使役動詞 (e.g. <i>khǒn</i> ‘carry’) 到達使役動詞 (e.g. <i>tèʔ</i> ‘kick’) 達成使役動詞 (e.g. <i>waan</i> ‘place’)	活動相 到達相 達成相
II 転位事象 [移動の過程] [2]様態動詞 (e.g. <i>kliŋ</i> ‘roll’) [3]瞬間的経路動詞 起動経路動詞 (e.g. <i>càak</i> ‘leave, get away from’) 前終結経路動詞 (e.g. <i>lòn</i> ‘drop onto’) [4]継続的経路動詞 活動経路動詞 (e.g. <i>won</i> ‘circle’) 達成経路動詞 (e.g. <i>taam</i> ‘follow’, <i>liap</i> ‘skirt’, <i>lɔʔ</i> ‘skirt’, <i>lɔt</i> ‘move under’, <i>phàan</i> ‘pass’, <i>thaliʔ</i> ‘move through’, <i>khâam</i> ‘cross’) [5]直示動詞 (e.g. <i>pay</i> ‘go’)	活動相 到達相 到達相 活動相 達成相 中立的 ²
III 到着事象 [転位後の変化 (+状態)] [6]到着動詞 終結経路動詞 到達終結経路動詞 (e.g. <i>thuiŋ</i> ‘arrive’) 達成終結経路動詞 (e.g. <i>hǎa</i> ‘approach and meet’) 結果終結経路動詞 (e.g. <i>yut</i> ‘stop and stay’) 変化動詞 ³ 到達変化動詞 (e.g. <i>klây</i> ‘get close’) 結果変化動詞 (e.g. <i>lòp</i> ‘escape’)	到達相 達成相 結果相 到達相 結果相

2.2. 空間前置詞

2.2.1. 経路前置詞

経路前置詞 (7) の多くは移動動詞と同形である。移動動詞は項名詞句を取っても取らなくてもよく、動詞否定辞で否定され得るが、経路前置詞は必ず項名詞句を取り、動詞否定辞で否定されることがない。動詞句連続体の移動表現では、移動動詞句は種類ごとに決まった順番に生起し (表 1 の[1]~[6])、それ以外の位置には生起できない。経路前置詞句は移動動詞句の後ろ (動詞句連続体ではその末尾) に生起するが、主題として扱われ節初頭に生起することもある。移動動詞句は動的な移動事象を描写する (叙述機能を持つ) が、経路前置詞句は静的な経路参照物 (起点/通過経路/通過点/着点) を指定する (動詞修飾機能を持つ) という意味的な違いもある。同じ経路参照物 (例: 起点としての部屋) であっても、顕著に影響を受ける中心的な事象参与者 (と話者が捉えるもの) は移動動詞の項名詞句 (目的語名詞句) として表され、そうではない周辺の事象参与者は経路前置詞の項名詞句 (斜格名詞句) として表される (部屋を出る vs. 部屋から出る)。⁴

- (7) a. 起点前置詞 *càak* ‘from (< leave, get away from)’
b. 通過経路前置詞 *taam* ‘along (< follow)’
c. 通過点前置詞 *phàan* ‘past (< pass)’
d. 着点前置詞 *yan* ‘to’, *thuiŋ* ‘to (< arrive, reach)’

2.2.2. 位置前置詞

位置前置詞 (8) は位置名詞と同形である。後ろに物体や空間を表す名詞句を取るとき位置前置詞として機能する。(8a)と(8b)が組み合わされた複合前置詞もある (例: *khâŋ-nay bâan* ‘in the house’)。位置前置詞句も、経路前置詞句と同様、経路参照物 (起点/通過経路/通過点/着点) の空間的特徴を指定する副詞的要素である。

- (8) a. 点/面/領域/方面など図式的特徴を表す位置前置詞
thii ‘at (< place)’, *thaan* ‘in the direction of (< way)’, *khâŋ* ‘at the side of (< side)’, *rim* ‘beside (< edge)’,
rɔɔp ‘around (< surrounding)’, *rawàan* ‘among/between’, *klaan* ‘in the center/middle of (< center, middle)’
b. 上下/前後/中外/右左などの対立的空間概念を表す位置前置詞
bon ‘on (< upper part)’, *nay* ‘in (< inner part)’, *nɔɔk* ‘out (< outer part)’, *nâa* ‘in front of (< face)’,
tây ‘below (< south, downhill, downstream)’

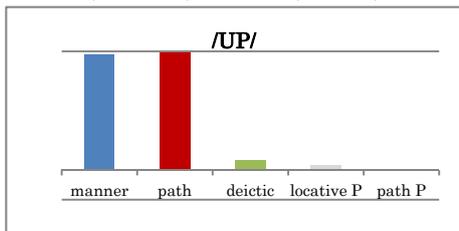
² いわゆる用途の広い経路動詞 (*khâw* ‘enter’, *rɔɔk* ‘exit’, *khûn* ‘ascend’, *loy* ‘descend’) も語彙相が未確定で固定されておらず、生起する統語位置によって瞬間相 (始動/停止の動き) あるいは継続相 (進展の動き) に解釈できる (高橋 2018)。

³ 変化動詞は移動動詞ではない。変化動詞単独では移動事象を表すことができない。

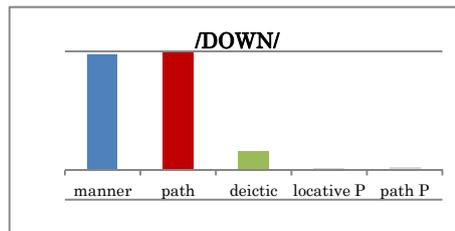
⁴ 目的語名詞句の指示物は、斜格名詞句の指示物に比べ、より顕著に動詞が表す行為 (移動動詞が表す移動) によって影響を受けるもの—言い換えれば、より中心的に移動事象に関与するもの—であると見なされる (Croft 1991: 155)。

3. 経路場面ごとの各種語彙の使用頻度

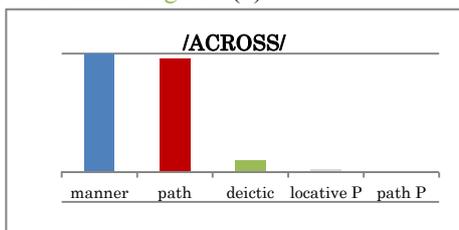
3.1. /UP/, /DOWN/, /ACROSS/, /PAST/, /THROUGH/ : 非直示動詞を多く使い、直示動詞や前置詞をあまり使わない。



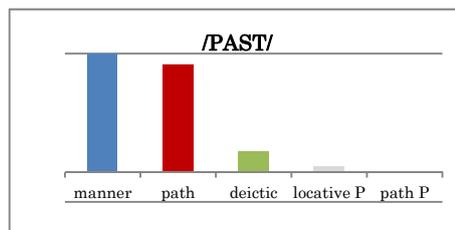
walk/run ascend (31/32)
walk/run ascend come (2/2)
run descend go on (2)



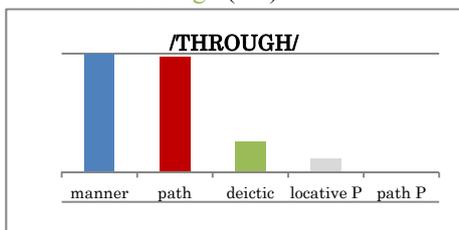
walk/run descend (30/29)
walk/run descend go (6/5)



walk/run cross/pass (33/33)
walk/run cross go (4/3)

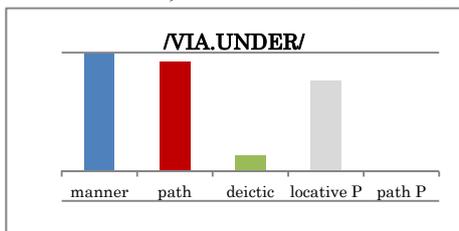


walk/run pass (29/29)
walk/run pass go (7/5), run on (2), walk (2)

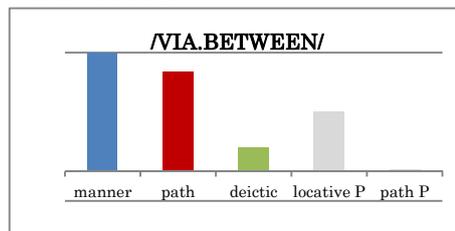


walk/run pass/move.through/move.under/move.under+pass (24/23)
walk/run pass go (4/4)
run pass in.the.middle.of (2)

3.2. VIA.UNDER, VIA.BETWEEN : 非直示動詞と位置前置詞の組み合わせを多く使う。

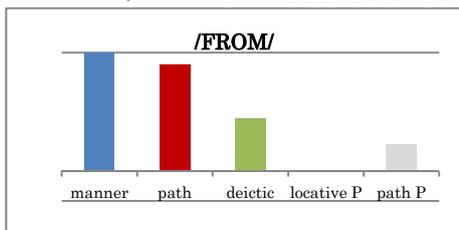


walk/run move.under/pass/pass+move.under below (26/23)
walk/run move.under (4/2)
walk/run move.under/pass go (2/3)
walk go (2), run below (2)

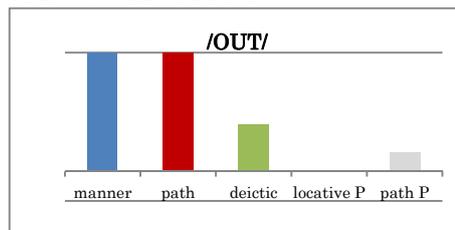


walk/run pass between (17/8)
walk/run pass (8/15)
run pass go (5), run between (2)
walk/run (2/3)

3.3. /FROM/, /OUT/ : 非直示動詞を多く使うが、直示動詞や経路前置詞も比較的よく使う。

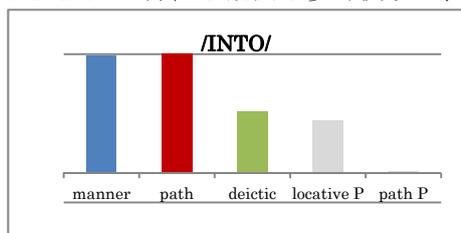


walk/stand.up/run exit+leave/remote+leave (20/18)
walk/run exit+leave/leave/exit go (8/4)
walk/run exit come/go from (7/4), run (2)



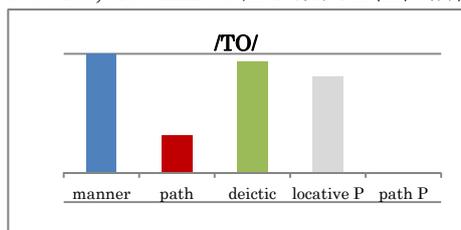
walk/run exit+leave (22/20)
walk/run exit come from (14/12)
walk/run exit+leave go (2/3), exit+leave (2)

3.4. /INTO/ : 非直示動詞を多く使うが、直示動詞や位置前置詞も比較的多く使う。

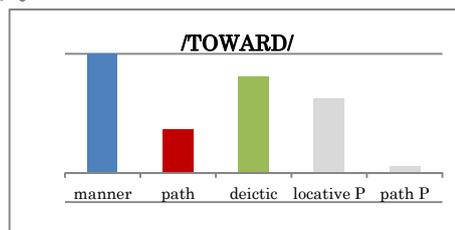


walk/run enter (15/19)
 walk/run enter go in (18/16)
 walk/run enter go (4/2)

3.5. /TO/, /TOWARD/ : 直示動詞と位置前置詞の組み合わせを多く使う。

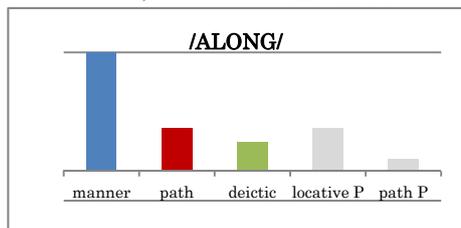


walk/run come/go at (24/20)
 walk/run enter come/go at (6/2)
 run enter go approach.and.meet (2)

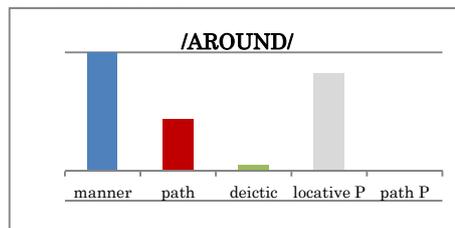


walk/run come/go at (20/17)
 walk/run enter go approach.and.meet (3/6)
 walk/run enter/return come/go at/in (4/2)
 run enter approach.and.meet (4)
 walk go approach.and.meet (3)
 run enter come in (2), walk/run (2/3)

3.6. /ALONG/, /AROUND/ : 経路動詞をあまり使わず、位置前置詞を比較的多く使う。



walk/run beside/at.the.side.of (14/9)
 walk/run skirt (5/6)
 walk/run skirt go along (2/4)
 walk go (3)
 walk/run on (2/2)
 walk skirt beside (2)
 run skirt go (2), run (8)



walk/run around (16/24)
 walk/run circle around (14/7)
 walk/run circle (6/4)

4. 考察

4.1. 選好統語パターン

前節の各グラフの下に、それぞれの経路場面で複数使われていた統語パターンを示し、最も生起頻度の高かった選好統語パターンの生起数を黄色で色付けした。選好統語パターンの違いによって14の経路場面は6つのグループに分類できることがわかった。

〈最も生起頻度の高かった選好統語パターン〉

A : /UP/, /DOWN/, /ACROSS/, /PAST/, /THROUGH/

「様態動詞，継続的経路動詞」 e.g. run ascend

B : /VIA.UNDER/, /VIA.BETWEEN/

「様態動詞，継続的経路動詞，位置前置詞」 e.g. run pass below

C : /FROM/, /OUT/

「様態動詞，瞬間的経路動詞，瞬間的経路動詞」 e.g. run exit+leave

D : /INTO/

「様態動詞，継続的経路動詞」 e.g. run enter および

「様態動詞，継続的経路動詞，直示動詞，位置前置詞」 e.g. run enter go in

E : /TO/, /TOWARD/

「様態動詞，直示動詞，位置前置詞」 e.g. run come at

F : /ALONG/, /AROUND/

「様態動詞，位置前置詞」 e.g. run around

					UP	DOWN
	FROM	OUT	VIA.BTW	PAST	THROUGH	ACROSS
TOWARD	TO	INTO	VIA.UNDER			
	ALONG	AROUND				

図1：本ワークショップで提案される「経路マップスケール」仮説

					UP	DOWN
	FROM	OUT	VIA.BTW	PAST	THROUGH	ACROSS
TOWARD	TO	INTO	VIA.UNDER			
	ALONG	AROUND				

図2：経路動詞による経路表示が75%以上（赤色）、50%以上（桃色）、25%以上（黄色）の3つのグループ

					UP	DOWN
	FROM	OUT	VIA.BTW	PAST	THROUGH	ACROSS
TOWARD	TO	INTO	VIA.UNDER			
	ALONG	AROUND				

図3：選好統語パターンに基づく6つのグループ（A, B, C, D, E, F）

4.2. 選好統語パタンの経路参照物の特徴

- A：通過経路/通過点 経路動詞 *ascend, descend, cross, pass* の項名詞句で表される中心的な事象参与者
- B：通過点 位置前置詞 *below, between* の項名詞句で表される周辺の事象参与者
- C：起点 経路動詞 *leave* の項名詞句で表される中心的な事象参与者
- D：着点 経路動詞 *enter* の項名詞句で表される中心的な事象参与者
あるいは、位置前置詞 *in* の項名詞句で表される周辺の事象参与者
- E：着点 位置前置詞 *at* の項名詞句で表される周辺の事象参与者
- F：通過経路 位置前置詞 *beside, around* の項名詞句で表される周辺の事象参与者

D グループ (/INTO/) には経路参照物「着点」が関与するが、それを（「入る」という移動事象によって顕著に影響を受ける）中心的な事象参与者として捉え、経路動詞 *enter* の項名詞句（目的語名詞句; *enter the house*）で表した被験者は40人中、15人 (/walk INTO/) および19人 (/run INTO/) いた。一方（「入る」という移動事象の背景を構成する）周辺の事象参与者として捉え、位置前置詞 *in* の項名詞句（斜格名詞句; *in the house*）で表した被験者もほぼ同数の18人 (/walk INTO/) および16人 (/run INTO/) いた。

「通過経路/通過点」が関与するAグループ (/UP/, /DOWN/, /ACROSS/, /PAST/, /THROUGH/) と「起点」が関与するCグループ (/FROM/, /OUT/) では、それらの経路参照物を（「上る/下る/渡る/過ぎる/通り抜ける/去る/出る」という移動事象によって顕著に影響を受ける）中心的な事象参与者として捉え、経路動詞 *ascend, descend, cross, pass, leave* の項名詞句で表す被験者が最も多かった。

「通過点」が関与するBグループ (/VIA.UNDER/, /VIA.BETWEEN/)、「着点」が関与するEグループ (/TO/, /TOWARD/)、「通過経路」が関与するFグループ (/ALONG/, /AROUND/) では、それらの経路参照物を（「下を通り抜ける/間を通る/行く/来る/縁を進む/回る」という移動事象の背景を構成する）周辺の事象参与者として捉え、位置前置詞 *below, between, at, beside, around* の項名詞句で表す被験者が最も多かった。

4.3. 選好統語パタンの経路参照物の事象参与者としての中心性/周辺性

- A：/UP/, /DOWN/, /ACROSS/, /PAST/, /THROUGH/ 中心的な事象参与者としての通過経路/通過点
- B：/VIA.UNDER/, /VIA.BETWEEN/ 周辺の事象参与者としての通過点
- C：/FROM/, /OUT/ 中心的な事象参与者としての起点
- D：/INTO/ 中心的な事象参与者としての着点
あるいは、周辺の事象参与者としての着点
- E：/TO/, /TOWARD/ 周辺の事象参与者としての着点
- F：/ALONG/, /AROUND/ 周辺の事象参与者としての通過経路

本ワークショップで検討するその他の言語（フランス語、クプサピニ語、シダーマ語、タガログ語）の移動表現（C 実験の結果）では/FROM/と/OUT/の選好統語パターンは同じではない。しかしタイ語の移動表現では同じである（「様態動詞、瞬間的経路動詞、瞬間的経路動詞」 e.g. run exit+leave）。タイ語移動動詞の時間的様態（アスペクト概念）の区別は総じて細かい（表 1）。タイ語話者は移動の終結性（着点）だけではなく始動性（起点）にも注目する。そのため、/FROM/と/OUT/に「(起点が中心的事象参与者として関与する) 起動相の移動事象」という共通性を見出し、同じ統語パターンで表現する人が多いのだと考えられる。

移動事象の概念構造において「垂直方向性 verticality」「水平方向性 vector」「境界越え boundary-crossing」「終結性 telicity」といった要素がこれまで重要視されてきた。通言語的に、それらの要素によって経路表示のあり方が左右されることが知られている。タイ語の C 実験の結果から、タイ語話者による経路表示においては、それらの要素に加え、「始動性 inceptiveness」も経路表示のあり方を左右する重要な要素であることが示唆された。

4.4. 先行研究の分析結果との齟齬

Kessakul (2005: 318) は、実際の発話に近い語りの文章（ファンタジー童話 *Harry Potter and the Chamber of Secrets* の 7 章分のタイ語訳）から集めた移動表現データを分析し、自律移動表現で最も生起頻度が高い選好統語パターンは 3 種類の動詞を含む「様態動詞、経路動詞、直示動詞」(e.g. run exit go) であるとした。しかし C 実験の結果はその分析に反し、E グループ (/TO/, /TOWARD/) を除いて、直示動詞はあまり使われていなかった。直示動詞に関する Kessakul (2005) の分析結果と本稿の分析結果の差は何に起因するのであろう。

直示動詞は単に物理的な移動事象「行く/来る」を表すだけの動詞ではない。身の周りの物体同士の位置関係を明確化するために目に見えない虚構的な移動を表現したり、比喩的に使われて事象の時間的様態や話者の主観的判断を表現したりする (Takahashi 2018)。特に「語り」という談話ジャンルでは、話を展開させるためにタイ語話者は直示動詞を多用する。短いビデオクリップ映像を使った C 実験では、その映像の中に被験者は語るべき物語を見出せず、単にどのような移動の場面なのか、その移動の種類を述べるに止まった、と見るべきであろう。もしハリーポッターの映画を見せて語らせれば、多くのタイ語話者が直示動詞を多用するに違いない。

5. おわりに

タイ語には多くの種類の移動動詞および空間前置詞があり、またそれらは単節に複数生起することが可能で、統語的な共起制約があまりない。したがって経路表示の選択肢はかなり幅広い。タイ語母語話者の発話データ（移動表現）を分析したところ、確かに多様な語彙と多様な統語パターンが使われていた。しかし重要な点は、今回扱った 14 のいずれの経路場面においても、特に生起頻度の高い（被験者 40 名の約半数が使っていた）選好統語パターンが見られた、という点である。C 実験に参加したタイ語母語話者の約半数に共有された見方として、各経路タイプに特有の経路参照物の特徴の違い（起点/通過経路/通過点/着点；中心的事象参与者/周辺の事象参与者）があり、そうした経路参照物の特徴の違いによって 14 の経路場面は 6 つのグループに分類できること、そしてそのグループごとに選好統語パターンが存在していることが分かった。経路参照物の特徴の違いが経路表示の選択に影響を及ぼしていると考えられるのである。また今回の実験では、タイ語話者は移動事象の始動性にも注目し、「去る/出る」という移動事象においては移動の起点を中心的事象参与者として捉え、その起点を表す名詞句を項として取る経路動詞を使って経路表示をする人が多い、という事実も確認できた。これらは全て「経路マップスケール」上の経路タイプの連続性に合致する（図 1-3）。

〈参考文献〉

- Croft, William. 1991. *Syntactic categories and grammatical relations: The cognitive organization of information*. Chicago: University of Chicago Press.
- Kessakul, Ruetaivan. 2005. *The semantic structure of motion expressions in Thai*. Ph.D. dissertation, Tokyo University.
- 高橋清子. 2017. 「タイ語の移動表現」 松本曜 (編) 『移動表現の類型論』 第 6 章, 129–158. くろしお出版.
- 高橋清子. 2018. 「タイ語の用途の広い経路動詞の語彙相を再考する: ビデオクリップ実験から得られた移動表現の一分析」 『神田外語大学紀要』 30: 435–453.
- Takahashi, Kiyoko. 2018. Deictic motion constructions in Japanese and Thai. In Pardeshi, Prashant and Taro Kageyama (eds.) *The handbook of Japanese contrastive linguistics*, Chapter 10, 291–312. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Takahashi, Kiyoko. to appear. Syntactic and semantic structures of Thai motion expressions.